

## 令和5年度 中央区立日本橋幼稚園 外部評価報告書

外部評価委員：今江嘉利、多賀谷里沙、野崎 剛、小森優子、村上勇人、藤木牧子、東 純生、  
竹田津敬子、岩上佳夫 ※敬称略

報告書作成者：細谷 美明（第三者評価委員）

評価時期 令和6年3月

### 1 重点目標の評価

#### 重点目標1(心身ともに健康で自分らしさを表現できる「げんきな こ」を育む)について

教員の自己評価や保護者のアンケート結果を見る限り、目標はおおむね達成できたものと判断する。特に、限られた環境の中で教材・教具を工夫して日常より園児が活動できる状況を創り出しながら様々な運動に取り組みさせる努力は評価できる。9月に運動会を見学したが、園児にとっては広い園庭（小学校の校庭と兼用）にもかかわらず、その空間を十分生かしての各表現活動は見事であり日常の保育活動の成果を十分うかがわせるものであった。

#### 重点目標2(優しく思いやりがあり、友達と仲よく遊びに取り組む「やさしい こ」を育む)について

この項目も教員の自己評価や保護者のアンケート結果を見る限り、目標はおおむね達成できたものと判断する。特に併設する小学校との交流活動や地域行事への参加など園長の経営方針である「With 日本橋！」のスローガンを着実に実行している印象を受ける。今後はさらに小学校との連携を密に幼小教員による合同研修も期待したい。

#### 重点目標3(自分で考えて行動し最後までやりぬく努力をする「かながえる こ」を育む)について

この項目も教員の自己評価や保護者のアンケート結果を見る限り、目標はおおむね達成できたものと判断する。ただこの項目は、保護者アンケートや教員による自己評価の質問項目との相関を見てとるにはやや難しい面があるため詳しい分析はしばらくのところがある。次年度以降、相関関係を把握しやすい質問内容になるよう工夫・検討してもらいたい。

### 2 今後の改善に向けた意見

併設する日本橋小学校で今年度まで行われてきた社会科教育の実践研究を幼小連携のフレームにはめ込み、次年度は体験活動中心の保育と小学校低学年の生活科、中・高学年の社会科といった系統的なカリキュラムを作成・実践をぜひ実現してもらいたい。さらに将来的に他の教科にも広がりを見せることができれば他の幼稚園や小学校のモデルとなることが期待できる。

### 3 その他の意見

幼稚園教育では小学校以上に保護者や地域との連携が重要な要素となる。しかし近年、本区においては外国人家庭が増加し、言葉の問題から保護者との意思疎通が難しく、園の教育方針や日常の子供に対する保育状況の伝達・理解ができずに悩んでいる幼稚園関係者が多いと聞く。にもかかわらず、本区において専門の日本語指導員の幼稚園への配置は皆無であると聞く。学校教育の出発点である幼稚園においてこの状況は看過できないであろう。行政の迅速な対処をお願いしたいものである。